

第38回

寒地土木研究所講演会

Web配信(収録版)

配信期間

令和7年/2/3日(水) ~ 2/12日(水)

申込みは1/23日(木) ~ 2/6日(木)まで

視聴方法

寒地土木研究所HPから事前申込みをしてください。
<https://chouseikan.ceri.go.jp/web/event/>

寒地土木研究所HP
[イベント情報]



視聴無料

著作者:jcomp/出典:Free01k



JSCE24
-1298
3.0 単位

本公演は、公益社団法人 土木学会継続教育(CPD)プログラムとして認定されています。
令和6年11月15日(金)現地開催の第38回寒地土木研究所講演会にご参加いただきCPD単位を取得された方は、同一の認定団体へ本Web配信と重複してCPD受講証明を申請することはできません。

令和6年11月15日(金)札幌市「かでの2・7」で開催の第38回寒地土木研究所講演会で収録したものをWeb配信します。

プログラム

基調講演

「第9期北海道総合開発計画と寒地土木研究」

約 60 分

前 国土交通省 北海道局長
北海道大学 創成研究機構 データ駆動型融合研究創発拠点 客員教授
橋本 幸 氏

一般講演

「食料安全保障を支える北海道農業の生産力強化」

約 30 分

寒地農業基盤研究グループ グループ長 佐々木 悟

「快適で質の高い生活を実現する公共空間のリデザインに関する研究開発」

約 30 分

地域景観チーム 上席研究員 福島 宏文

「オホーツク海における波浪研究」~これまでの取り組み~

約 30 分

寒冷沿岸域チーム 主任研究員 岩崎 慎介

「極端化する雪氷災害に対応する防災・減災技術の開発」

約 30 分

雪氷チーム 上席研究員 西村 敦史

第38回 寒地土木研究所講演会

基調講演

第9期北海道総合開発計画と寒地土木研究



橋本 幸氏

HASHIMOTO Koh

前 国土交通省 北海道局長
北海道大学 創成研究機構 データ駆動型融合研究創発拠点 客員教授

講演者プロフィール

1964年生まれ
1992年 北海道大学大学院工学研究科修了
1992年 北海道開発庁採用
2017年 国土交通省北海道開発局 道路計画課長
2019年 JR北海道 執行役員 総合企画本部副本部長
2020年 国土交通省北海道開発局建設部長
2021年 国土交通省北海道開発局長
2022年 国土交通省北海道局長
2024年 北海道大学 創成研究機構
データ駆動型融合研究創発拠点 客員教授
2024年 国土交通省退職

北海道の未来を描く計画として本年3月に閣議決定された「第9期北海道総合開発計画」について、その背景や計画策定の経緯も交えながらそのポイントをご紹介しますとともに、寒地土木研究所の行う研究との重なりや、現在取り組んでいる第5期中長期計画研究開発プログラムへの期待についてお話いただきます。

一般講演

食料安全保障を支える北海道農業の生産力強化



佐々木 悟 寒地農業基盤研究グループ グループ長

世界人口の急増、気候変動及び地政学リスクにより、世界の食料供給は不安定化している。我が国の食料安全保障を支える北海道でも、食料供給力の脆弱化が懸念されている。北海道農業の持続的発展に向けて、農業生産性の向上と環境負荷の低減を研究開発によって両立することが求められており、寒地土木研究所の取組を紹介します。

快適で質の高い生活を実現する公共空間のリデザインに関する研究開発



福島 宏文 地域景観チーム 上席研究員

人口減少が進む地方小都市では、地域の魅力や活力の低下が懸念されており、美しい景観と良好な環境に溢れた快適で質の高い生活の実現が求められます。こうしたニーズの変化に合わせてインフラ空間を最適化(リデザイン)する技術として、観光地等の屋外公共空間の魅力向上や市街地の歩行空間の賑わい創出に関する研究開発を紹介します。

オホーツク海における波浪研究 ～これまでの取り組み～



岩崎 慎介 寒冷沿岸域チーム 主任研究員

海氷は波浪を減衰させる効果がある一方、我が国の北部に隣接するオホーツク海は、地球温暖化による海氷減少により、波浪の増大やそれに伴う様々な災害の多発が懸念されている。これまでオホーツク海の波浪に着目した研究例は少なく、波浪の最適な計算アルゴリズムや長期変動特性が未解明のままであった。本講演では、寒冷沿岸域チームで取り組んできたオホーツク海の波浪研究に関する研究成果を紹介します。

極端化する雪氷災害に対応する防災・減災技術の開発



西村 敦史 雪氷チーム 上席研究員

近年極端化する雪氷災害の被害軽減に資するため、極端な冬期気象イベント時における雪氷災害の発生危険度を予測する技術の開発や、数値計算による防雪柵の性能評価手法の標準化、および防雪林の複合的配置など新たな防雪林の構造の提示等の技術開発に取り組んでおり、これらの内容や予測される成果について紹介します。